

審 議 経 過

事務局	12月7日（水）に第1回の報酬等審議会を開催していただきましたが、本日は第2回ということで、前回配布いたしました資料等をもとに、引き続き審議をお願いしたいと思います。 それでは、これからの進行は、今泉会長の方でよろしくお願いします。
会長	それでは、第2回審議会を開催します。 まず、事務局より追加資料の説明がございます。事務局お願いします。
事務局	追加資料説明
会長	ただいま、事務局からの説明が終わりましたので、質問、ご意見等がございましたらお願いします。また、第1回審議会での説明に関する質問、ご意見等もあればお願いします。
委員	将来負担比率について、一般的に適正な水準があるのか。
事務局	早期適正化基準というものがあり、350パーセントとなっています。 自由に使えるお金をすべて使って1年で返せる金額が100パーセントですので、すべて返すのに3年半かかる額が350パーセントという数値となります。 この将来負担比率などが導入されたのは、夕張市の問題がきっかけです。
委員	将来負担比率が年々下がってきているのは、いいことと捉えるべきなのか。
事務局	いいことと捉えるべきだと思います。 地方債現在高は、2百億から2百十何億とずっとかわっていませんが、自主財源が増えてきているので将来負担比率の数値が下がってきているといえるかだと思います。
委員	自主財源は、積立金現在高になるのですか。
事務局	積立金現在高であったり、税の収入であったり、そういったものになります。
委員	財政状況の考え方として、将来負担比率は低いほどよいという考えでよいのか。 また、投資が減っているということか。
事務局	将来負担比率は低いほどよいということで、財政的な考え方はいいと思います。 将来負担比率は借金総額を自由に使えるお金で割った数値ですので、借金の総額が変わっていないのに将来負担比率がどんどん下がっているのは、自由に使えるお金が増えて将来負担比率が下がっているということです。 また、投資については、地方債現在高が示すようにほぼ一定しており、投資をしていないということではありません。 地方債、借金の考え方としましては、受益者に対して平準化して負担していただくという考え方もあり、道路や橋、下水道等のインフラ整備については、長期にわたって受益される方がいる場合は、あえて借金をしてそれを平準化して返していくという考え方もあります。 将来負担比率がゼロであることに越したことはありませんが、下水道などのインフラ整備にはお金はかかりますので、まったく投資をしなければ借金は生まれませんが、先行投資をするがゆえに借金もある程度生まれてきます。
委員	この財政状況の推移の資料をみれば、市はこれまでインフラ等の整備に投資を続けており、直近では財政状況はよくなっているということでもいいのか。
事務局	そうです。

審 議 経 過

委員	自由に使えるお金が増えているという話がありましたが、例えば税収増やふるさと納税など自主財源が増えた一番の要因というのは何か、教えていただければと思います。
事務局	税収については、増えておりましたが、積立金現在高が平成27年に一気に増えております。伊万里市が本格的にふるさと納税に取り組み始めたのがこの時期になります。ここから若干積立金が増えてきています。
委員	資料の県内10市の特別職の報酬を見ると、伊万里市は武雄市と特別職の報酬額が近いが、人口や税収など武雄市と何が違うのか。
事務局	人口については、伊万里市の方が武雄市より5千人ほど多いです。地方税だけでいいますと、伊万里市が70億、武雄市が57億と税収も伊万里の方が多くなっています。市の財政力を示す財政力指数は、資料を見ていただくと、1番目が鳥栖市で0.94、2番目が佐賀市で0.64、3番目が伊万里市で0.57、4番目が武雄市で0.49となっており、県内では伊万里市は財政力はある方だといえます。
委員	県内10市の特別職報酬の現況を見ると、唐津市が平成17年、鳥栖市が平成15年に改定後まったく改定されていないが、現在の改定状況として報酬は下がっているのか。
事務局	資料には改定時期のみを記載していますが、審議会が開催されております。直近では、唐津が平成24年度、鳥栖市が令和元年度に開催され、どちらも据え置きとなっています。ちなみに、佐賀県は令和2年度に開催され、据え置きとなっています。
委員	他の市が改定された要因についてはわかりますか。
事務局	わかりません。
委員	答申をしないといけないと思うんですが、判断材料が相対的な他市との比較や財政状況の動向ぐらいしかないので、絶対評価として報酬がいくらというものは私たちでは考えつかないのですが、今日は答申意見を決めるんですよね。
会長	最終的には、皆様の多数決により決定します。
委員	議員と市長等の報酬は、連動して決めるのか。別々に決めるのか。
事務局	方法としては、連動させることも、別々に決めることも可能です。今までの伊万里市のやり方としては、連動させた決め方で行っています。嬉野市や神埼市のように別々に決定されている市もあります。あくまで、市長いくら、副市長いくら、議員いくらといった形で答申を行います。
委員	財政状況については、改善の方向に向かっている。地方債現在高については、現状維持ではあるがちゃんと投資もやっている。気持ちとしては、報酬額を上げてもいいんじゃないかと思いますが、先行きが不透明な中で物価もどこまで上がるかわからず、個人消費への打撃等も鑑みると税収も減ってくるでしょうし、そのあたりも考えると個人的には据え置きなのかなと思います。また、今後の支出として、将来的には市庁舎の老朽化に伴う建て替え等の問題も出てきますよね。

審 議 経 過

事務局	財政状況は改善してきておりますが、今の財政状況がいいのかといいますとまだまだ厳しい状況です。今後、市庁舎の建て替えはわかりませんが、学校の建て替え等行政運営を行っていく上では大きな支出の予定は常にあると考えていただければと思います。
委員	報酬ですから、上げるにしてもそれなりの理由がいる。 やはり、審議委員が納得いく答えを出さないといけないと思う。 財政状況が改善されているとはいうものの、これから学校や公共施設の建て替えなど、いろんな事業がまだいっぱい残っており、そのあたりも考えなければならぬと思います。
会長	他にご意見等はございませんでしょうか。 それでは、委員の皆さんからいろいろな意見が出され、議論もなされたと思います。 答申書をまとめなければなりませんので、最終的な意見として、「据え置き」、「減額」、「増額」について、皆さんに最終確認をお願いしたいと思います。
	（最終確認） 据え置き：4名、減額：1名、増額：1名 （会長除く）
会長	据え置きという意見が多いようですが、それでは委員会として、「据え置き」ということで、皆さんよろしいですか。
委員	委員了解
会長	審議会としての答申書についてですが、文案は事務局で作成してもらい、会長に決定を一任してもらおうということで良いのでしょうか。
委員	委員了解
会長	答申書は私と事務局とで打ち合わせて作成したいと思います。 それでは、答申を行う日について、市長の日程もありますので、事務局から日程案をお願いします。
事務局	事務局といたしましては、1月16日（月）午後1時30分からお願ひしたいと考えております。
会長	1月16日（月）の午後1時30分から最後の審議会を行い、市長に対して答申を行うということでよろしいでしょうか。
委員	委員了承
第3回目は1月16日（月）午後1時30分に決定	